

平成24年度常緑果樹関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

公益財団法人日本植物調節剤研究協会

平成24年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成25年6月11日(火)にホテルラングウッドにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者20名、委託関係者16名ほか、計45名の参集を得て、除草剤1薬剤(4点)、生育

調節剤9薬剤(35点)、展着剤2薬剤(4点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成24年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類・継 続の別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. SAH-0107 液 グリンチートイソプロピルアミン塩:1% [住商アグロインターナショナル]	不知火	適用性 継続	愛媛 果樹研 熊本 天草 (2)	ねらい 対象 雑草 一年生科 全般 一年生広葉 全般 多年生科 全般 多年生広葉 全般 その他 設計 薬量 (水量) /10a 茎葉処理 雑草生育期(草丈30cm以下) 20mL/m ² <希釈せずそのまま散布> 40mL/m ² <希釈せずそのまま散布> 対) マルチリーク 雑草生育期(草丈30cm以下) 500mL <100L>	除草効果は効果完 成時(目安として 処理後20日)に調 査を行う。また、そ の後の抑草期間も 調査する。 対象作物にかから ないように散布す る。	実・継 続 実	実 [一年生雑草、多年生雑草] ・生育期(草丈30cm以下) ・20~40mL/m ² (希釈せずそのまま散布) ・茎葉処理 継 続 一年次変動の確認 ・多年生雑草に対する効果の 確認
	温州 みかん	倍量薬害 継続	山口 柑キツ振せ (1)	ねらい 対象 雑草 一年生科 - 一年生広葉 - 多年生科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 (水量) /10a 茎葉処理 かんきつ生育期 40mL/m ² <希釈せずそのまま散布> 80mL/m ² <希釈せずそのまま散布> (倍量区)	対象作物にかから ないように散布す る。		
	不知火	倍量薬害 継続	熊本 天草 (1)	ねらい 対象 雑草 一年生科 - 一年生広葉 - 多年生科 - 多年生広葉 - その他 設計 薬量 (水量) /10a 茎葉処理 かんきつ生育期 40mL/m ² <希釈せずそのまま散布> 80mL/m ² <希釈せずそのまま散布> (倍量区)	対象作物にかから ないように散布す る。		

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 ・継 の別	試験担当場所 ○は試験中など (敬)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. AKD-8147 水溶 1-ナフチレン酢酸ナトリウ ム:22% [アグロカネコ]	甘夏	適用性 系統	福岡	(1) ねらい 摘果効果 設計 薬量 (水量) /10a 立木全面散布あるいは枝別散布 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1500倍 <十分量> 二次生理落果盛期 (満開20~50日後/1回) 1000倍 <十分量> 参) ナム水溶剤 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1000倍 <十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。	実・継	実) [カンキョ(温州ミカンを除く); 摘 果] ・生理落果盛期 (満開10~20日後) ・1000倍 十分量 ・立木全面散布あるいは枝別 散布 ・効果の確認された品種 天草、伊予柑、清見、せとか、 はるみ [清見、湘南ゴールド、せとか、 摘果] ・生理落果盛期 (満開20~50日後) ・1000倍 十分量 ・立木全面散布あるいは枝別 散布
	伊予柑	適用性 系統	山口 柑キョ振セ 福岡	(2) ねらい 摘果効果 設計 薬量 (水量) /10a 立木全面散布あるいは枝別散布 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1500倍 <十分量> 二次生理落果盛期 (満開20~50日後/1回) 1000倍 <十分量> 参) ナム水溶剤 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1000倍 <十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。		[清見、湘南ゴールド、せとか、 摘果] ・生理落果盛期 (満開20~50日後) ・1000倍 十分量 ・立木全面散布あるいは枝別 散布
	清見	適用性 系統	福岡	(1) ねらい 摘果効果 設計 薬量 (水量) /10a 立木全面散布あるいは枝別散布 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1500倍 <十分量> 二次生理落果盛期 (満開20~50日後/1回) 1000倍 <十分量> 参) ナム水溶剤 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1000倍 <十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。		継) ・品種への影響、年次変動の 確認 ・満開20~50日での効果、葉害 の確認(甘夏、伊予柑) ・1500倍での効果、葉害の確認
	湘南 ゴールド	適用性 系統	神奈川 根府川	(1) ねらい 摘果効果 設計 薬量 (水量) /10a 立木全面散布あるいは枝別散布 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1500倍 <十分量> 二次生理落果盛期 (満開20~50日後/1回) 1000倍 <十分量> 参) ナム水溶剤 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1000倍 <十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。		
	せとか	適用性 系統	愛知 柑キョ振セ 山口 福岡 長崎	(4) ねらい 摘果効果 設計 薬量 (水量) /10a 立木全面散布あるいは枝別散布 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1500倍 <十分量> 二次生理落果盛期 (満開20~50日後/1回) 1000倍 <十分量> 参) ナム水溶剤 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1000倍 <十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。		
	天草	適用性 系統 (自社)	福岡	(1) ねらい 摘果効果 設計 薬量 (水量) /10a 立木全面散布あるいは枝別散布 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1500倍 <十分量> 参) ナム水溶剤 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1000倍 <十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。		
	はるみ	適用性 系統 (自社)	福岡	(1) ねらい 摘果効果 設計 薬量 (水量) /10a 立木全面散布あるいは枝別散布 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1500倍 <十分量> 参) ナム水溶剤 一次生理落果盛期 (満開10~20日後/1回) 1000倍 <十分量>	展着剤を加用する。 実際の散布液量を 記録する。		
	2. BA 液 ベンゾアミノグリシン:3% [広島県立総合技術 研究所]	レモン	適用性 新規 (自主)	<広島>	(1) ねらい 新梢発生促進(自主試験) 設計 薬量 (水量) /10a 緑枝部分への全面散布 萌芽直前~萌芽期 150倍 <十分量>		継
3. CS-22H 水和 炭酸カルシウム:91.0% [白石カネコ]	温州 ミカン	適用性 系統	和歌山 果樹研 愛媛 果樹研 佐賀 果樹研 長崎 果樹研 熊本 果樹研	(5) ねらい 設計 薬量 (水量) /10a 浮皮軽減、果皮水分減少促進 枝別又は樹別散布 着色初期 100倍 1回 <十分量(500L/10a)> 着色初期~5分着色期 100倍 2回 <十分量(500L/10a)> 対) カブツ 枝別又は樹別散布 着色初期 100倍 1回 <十分量(500L/10a)>	処理区および無処 理区は他の浮皮軽 減剤の使用はしな い。 浮皮の発生し易い 品種を希望。 調査項目:浮皮発生 率、浮皮発生度、予 措効果、程度別発生 割合、果実品質、果 皮色希望。	実・継	実) [温州ミカン;浮皮軽減] ・着色初期 ・100倍 1~2回 十分量 ・散布(果実表面に十分付着す るよう) 継) ・果皮水分減少促進効果の確 認

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 別の	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備考	判定	判定内容
4. J-455 乳 エチアレート:20.0% [日産化学工業]	温州 ミカン	適用性 新規	名城大 和歌山 果試 熊本 果樹研 (3)	ねらい 樹勢強化 設計 立木全面散布 薬量 10000倍<300L>, 20000倍<300L> <水量> /10a 緑化期 10000倍<300L>, 20000倍<300L>	処理当年の調査:葉色、果実肥大の推移、収量と果実品質、幹径肥大、落葉程度。 翌年の春季調査:新梢数、新梢長および新葉の葉面積。 処理効果が認められない場合には、前年と同じ処理を行い、前年と同様に調査を行う。	継 継	[温州ミカン;樹勢強化] ・効果、葉害の確認
5. イブプロホタン 乳 イブプロホタン:40.0% [日本農薬]	温州 ミカン	適用性 新規	愛媛 みかん研 佐賀 果樹試 (自社) 長崎 (3)	ねらい 着色促進 設計 立木前散布 収穫20~30日前 薬量 2000倍<十分量> <水量> /10a 3000倍<十分量> 4000倍<十分量> 比)フイコ乳剤 立木前散布 1回目:満開50~90日後 2回目:満開70~110日後 慣行<慣行>	調査は収穫後、色差計で果皮色(赤み値)を測定し、各果実の着色歩合を調査する。 果実品質(果実重、酸度、糖度、浮皮果率)を調査する。	継 継	[温州ミカン;着色促進] ・効果、葉害の確認
6. ジベレリン+PDJ 水溶液 ジベレリン:3.1% プロトキシメソ:5% [日本ジベレリン研究会、*日本ゼオン]	ボンカン	適用性 継続	静岡 伊豆 愛媛 みかん研 (2)	ねらい 落果防止効果 設計 全面散布 薬量 開花始め~満開期 <水量> /10a PDJ 50ppm+GA 10ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA 10ppm <十分量> 満開7~10日後 PDJ 50ppm+GA 10ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA 10ppm <十分量> 対)ジベレリン 全面散布 開花始め~満開10日後 GA 25ppm<十分量>	調査項目:試験前に着花数、また、一次落果後、二次落果後に着果率(着果数/着花数)を調査。 中晩柑では、500枚以上着葉の枝がある樹を目処とする。	実・継	実) [温州ミカン;不知火、清見、 カビ;落果防止] ・開花始め~満開10日後 ・ジベレリン10ppm+PDJ25~50ppm 十分量 ・散布 ・効果の確認された品種 温州ミカン、不知火、清見、ボンカン 継) ・伊予柑、ボンカンにおける効果、 葉害の確認
	ボンカン	適用性 継続	熊本 天草 鹿児島 (2)	ねらい 水腐れ防止(着色遅延の回復について) 設計 果実を中心に全面散布 着色初期 薬量 PDJ 50ppm+GA 5ppm <十分量> <水量> /10a PDJ 50ppm+GA 3.3ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA 5ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA 3.3ppm <十分量>	水腐れの程度、着色程度、果実品質の調査する。 着色が遅延することがある。	実・継 実	実) [ボンカン、不知火;水腐れ軽 減] ・着色初期 ・ジベレリン3.3~5ppm +PDJ25~50ppm 十分量 ・散布(果実を中心に全面散布) 注) ・使用時に混用する ・着色が遅延する事があるため 貯蔵用のクシヨウミカンで使用する ・処理により緑斑を生じることがある
	不知火	適用性 継続	熊本 天草 鹿児島 (2)	ねらい 水腐れ防止 設計 果実を中心に全面散布 着色初期 薬量 PDJ 50ppm+GA 5ppm <十分量> <水量> /10a PDJ 50ppm+GA 3.3ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA 5ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA 3.3ppm <十分量>	水腐れの程度、着色程度、果実品質の調査する。 着色が遅延することがある。	継 継	継) ・着色遅延の回復について(本 邦産、不知火) ・効果、葉害の確認(伊予柑、不 知火、はるかな)
7. ジベレリン+PDJ 水溶液 ジベレリン:3.1% PDJ15% [長崎県農林技術開発センター]	温州 ミカン	適用性 継続 (自主)	長崎 (1)	ねらい クラッキング防止 設計 枝別散布 着色8~9分前(収穫20~30日前) 薬量 PDJ 50ppm+GA 5ppm <十分量> <水量> /10a PDJ 50ppm+GA 3.3ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA 5ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA 3.3ppm <十分量> 対) 無処理		継	[温州ミカン;クラッキング防止] 継) ・効果、葉害の確認
8. ジベレリン+PDJ 水溶液 ジベレリン:3.1% プロトキシメソ:5% [協和発酵バイオ]	温州 ミカン	適用性 新規 (自社)	(独)果樹研 山口 柑桔振 愛媛 みかん研 (3)	ねらい 浮皮軽減 設計 果実散布 収穫予定日の3ヶ月前 但し収穫 薬量 45日前まで GA 1ppm +PDJ 1000倍<十分量> <水量> /10a GA 1ppm +PDJ 2000倍<十分量> GA 3.3ppm+PDJ 2000倍<十分量> 対) 無処理	浮皮の程度、着色、果実品質を調査。 調査時期は通常収穫期の1週間前、通常の収穫期、通常収穫期の1週間後及び2週間後。	実・継 (従来どおり)	実) [温州ミカン;浮皮軽減] ・収穫予定3ヶ月前 ・ジベレリン2.5~5ppm +PDJ25~50ppm 十分量 ・散布(果実表面に十分付着するよう) 注) ・使用時に混用する ・着色が遅延する事があるため 貯蔵用のクシヨウミカンで使用する ・処理により緑斑を生じることがある 継) ・ジベレリン低濃度での効果の確認。 ・着色遅延の年次変動の確認。

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率 (%) 【委託者】	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい 試験設計 等	備 考	判定	判定内容
9. ジベレリン+マン油 水溶+乳 ジベレリン:3.1% マン油:97% 【協和発酵ハイイ】	温州 ミカン	適用性 継続 (自社)	和歌山 果試 山口 柑キヲ振 佐賀 果樹試 (3)	ねらい 花芽抑制による樹勢の維持 立木全面散布及び枝別散布 収穫約2ヵ月後 GA 2.5ppm+マン油 60倍 <50~250> GA 2.5ppm+マン油 80倍 <50~250> GA 5.0ppm+マン油 60倍 <50~250> GA 5.0ppm+マン油 80倍 <50~250> 対) 無処理	直花数、有葉花数、 新梢数を調査する。	継	【温州ミカン:花芽抑制による樹 勢の維持】 (継) ・効果、被害の確認

C. 展着剤

薬剤名 有効成分および 含有率 (%) 【委託者】	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい 試験設計 等	備 考	判定	判定内容
1. AKD-9060 展着 ウルヒタン脂肪酸エステ ル:48% ポリオキシエチレン脂肪酸エ ステル:28% ポリナフチルメタンスルホン酸 ジアルキルシメチルアンモニウ ム:2.5% 【アグロ カネショウ】	カンキョウ	適用性 新規	愛媛 果樹研 佐賀 果樹試 (2)	ねらい 摘果剤に加入 立木全面散布あるいは枝別散布 一次生理落果発生期 本剤5mL / 散布液10L +カール水溶剤 500倍 <十分量> 本剤10mL / 散布液10L +カール水溶剤1000倍 <十分量> 本剤10mL / 散布液10L +カール水溶剤 500倍 <十分量> 比) カール水溶剤 一次生理落果発生期 500倍 (展着剤無加用) <十分量> 比) カール水溶剤 一次生理落果発生期 1000倍 (展着剤無加用) <十分量>		-	
2. AKD-9043 展着 ポリオキシエチレンアルキルエー テル:55.0% 【アグロ カネショウ】	河内晩 柑	適用性 新規	愛媛 みかん研 熊本 天草 (2)	ねらい 後期落果防止剤加用による影響の確 認 立木全面散布あるいは枝別散布 着色期~収穫20日前 本剤5mL / 散布液10L +マテックEW2000倍 <十分量> 本剤3.3mL / 散布液10L +マテックEW2000倍 <十分量> 比) マテックEW 着色期~収穫20日前 2000倍 (展着剤無加用) <十分量>		-	